

2.7 速度・加速度

問題

185 直線軌道を走る電車がブレーキをかけ始めてから止まるまでの間について、 t 秒間に走る距離を x メートルとすると、

$$x = 16(t - 3at^2 + 4a^2t^3 - 2a^3t^4)$$

であるという。ここで、 a は運転席にある調節レバーによって値を調節できる正の定数である。

- (1) ブレーキをかけ始めてから t 秒後の電車の速度 $v = \frac{dx}{dt}$ を t と a で表せ。
- (2) 駅まで 200 メートルの地点でブレーキをかけ始めたときにちょうど駅で電車が止まったとする。そのときの a の値を求めよ。
- (3) 乗客の安全のため、電車の加速度 $\alpha = \frac{d^2x}{dt^2}$ の大きさ $|\alpha|$ が 1 を越えない範囲にレバーを調節しておく規則になっている。このとき、ブレーキをかけ始めてから止まるまでの距離を最小にする a の値とそのときの距離を求めよ。(立教大)

186 座標平面上を運動する点 P の時刻 t における座標を

$$x = e^t \cos t, \quad y = e^t \sin t$$

とするとき、次の問に答えよ。

- (1) 時刻 t における点 P の速度 \vec{v} およびその大きさ $|\vec{v}|$ を求めよ。
- (2) $t = \frac{\pi}{2}$ のとき、ベクトル \vec{v} が x 軸の正の向きとのなす角 α を求めよ。
- (3) 原点を O とするとき、ベクトル \vec{v} とベクトル \vec{OP} のなす角 θ は一定であることを示し、 θ を求めよ。(香川大)

チェック・チェック

185 数直線上を運動する点 P の座標 x が、時刻 t の関数として

$$x = f(t)$$

と表されるとき、 x の変化率 v 、すなわち

$$v = \frac{dx}{dt} = f'(t)$$

を時刻 t における点 P の**速度**といい、速度の絶対値 $|v|$ を**速さ**といいます。

さらに、速度 v の変化率 α 、すなわち

$$\alpha = \frac{dv}{dt} = \frac{d^2x}{dt^2} = f''(t)$$

を時刻 t における点 P の**加速度**といいます。

186 平面上を運動する点 P(x, y) において、時刻 t の関数として

$$x = f(t), y = g(t)$$

と表されるとき、点 P の x 軸方向の速度 $\frac{dx}{dt}$ 、 y 軸方向の速度 $\frac{dy}{dt}$ を成分とするベクトル \vec{v} 、すなわち

$$\vec{v} = \left(\frac{dx}{dt}, \frac{dy}{dt} \right)$$

を時刻 t における点 P の**速度**といいます。 \vec{v} の向きは、点 P のえがく曲線の接線方向と一致します。

また、 \vec{v} の大きさ $|\vec{v}|$ 、すなわち

$$|\vec{v}| = \sqrt{\left(\frac{dx}{dt}\right)^2 + \left(\frac{dy}{dt}\right)^2}$$

を点 P の**速さ**といいます。

さらに点 P の x 軸方向の加速度 $\frac{d^2x}{dt^2}$ 、 y 軸方向の加速度 $\frac{d^2y}{dt^2}$ を成分とするベクトル $\vec{\alpha}$ 、すなわち

$$\vec{\alpha} = \left(\frac{d^2x}{dt^2}, \frac{d^2y}{dt^2} \right)$$

を時刻 t における点 P の**加速度**といいます。

解答・解説

$$185 \quad x = 16(t - 3at^2 + 4a^2t^3 - 2a^3t^4)$$

$$(1) \quad v = \frac{dx}{dt} = \underline{16(1 - 6at + 12a^2t^2 - 8a^3t^3)}$$

(2) $v = 0$ を解くと

$$16(1 - 6at + 12a^2t^2 - 8a^3t^3) = 0$$

$$(1 - 2at)^3 = 0$$

$$2at = 1 \quad \therefore \quad t = \frac{1}{2a}$$

となるので、ブレーキをかけ始めてから止まるまでの距離を x_0 とすると

$$\begin{aligned} x_0 &= 16 \left\{ \frac{1}{2a} - 3a \cdot \left(\frac{1}{2a}\right)^2 + 4a^2 \cdot \left(\frac{1}{2a}\right)^3 - 2a^3 \cdot \left(\frac{1}{2a}\right)^4 \right\} \\ &= 16 \left(\frac{1}{2a} - \frac{3}{4a} + \frac{1}{2a} - \frac{1}{8a} \right) \\ &= 16 \cdot \frac{1}{8a} = \frac{2}{a} \end{aligned}$$

よって、 $x_0 = 200$ のとき

$$\frac{2}{a} = 200 \quad \therefore \quad \underline{a = \frac{1}{100}}$$

$$\begin{aligned} (3) \quad \alpha &= \frac{d^2x}{dt^2} = \frac{dv}{dt} = 16(-6a + 24a^2t - 24a^3t^2) \\ &= 16 \cdot (-24a^3) \left(t^2 - \frac{t}{a} + \frac{1}{4a^2} \right) \\ &= -384a^3 \left(t - \frac{1}{2a} \right)^2 \end{aligned}$$

$$\therefore |\alpha| = 384a^3 \left(t - \frac{1}{2a} \right)^2$$

$0 \leq t \leq \frac{1}{2a}$ における $|\alpha|$ の最大値は

$$96a \quad (t = 0)$$

よって、 $|\alpha| \leq 1$ とするためには $96a \leq 1$ であればよく、これと $a > 0$ を合わせて

$$0 < a \leq \frac{1}{96}$$

この範囲において、 x_0 が最小となるのは $\underline{a = \frac{1}{96}}$ のときであり、そのときの距離は

$$\frac{2}{\frac{1}{96}} = \underline{192 \text{ (メートル)}}$$

186 (1) $x = e^t \cos t$, $y = e^t \sin t$

$$\begin{aligned}\frac{dx}{dt} &= (e^t)' \cos t + e^t (\cos t)' = e^t \cos t - e^t \sin t \\ &= e^t (\cos t - \sin t)\end{aligned}$$

$$\begin{aligned}\frac{dy}{dt} &= (e^t)' \sin t + e^t (\sin t)' = e^t \sin t + e^t \cos t \\ &= e^t (\cos t + \sin t)\end{aligned}$$

よって

$$\vec{v} = \left(\frac{dx}{dt}, \frac{dy}{dt} \right) = (e^t (\cos t - \sin t), e^t (\cos t + \sin t))$$

$$\begin{aligned}|\vec{v}| &= \sqrt{\{e^t (\cos t - \sin t)\}^2 + \{e^t (\cos t + \sin t)\}^2} \\ &= e^t \sqrt{(1 - 2 \cos t \sin t) + (1 + 2 \cos t \sin t)} \\ &= \sqrt{2} e^t\end{aligned}$$

(2) $t = \frac{\pi}{2}$ のとき

$$\vec{v} = \left(e^{\frac{\pi}{2}} (0 - 1), e^{\frac{\pi}{2}} (0 + 1) \right) = e^{\frac{\pi}{2}} (-1, 1) = \sqrt{2} e^{\frac{\pi}{2}} \left(\cos \frac{3}{4} \pi, \sin \frac{3}{4} \pi \right)$$

$$\therefore \alpha = \underline{\underline{\frac{3}{4} \pi}}$$

(3) $\vec{OP} = (e^t \cos t, e^t \sin t)$ なるので

$$\begin{aligned}|\vec{OP}| &= \sqrt{(e^t \cos t)^2 + (e^t \sin t)^2} = e^t \\ \vec{v} \cdot \vec{OP} &= e^t (\cos t - \sin t) \cdot e^t \cos t + e^t (\cos t + \sin t) \cdot e^t \sin t = e^{2t}\end{aligned}$$

よって

$$\cos \theta = \frac{\vec{v} \cdot \vec{OP}}{|\vec{v}| |\vec{OP}|} = \frac{e^{2t}}{\sqrt{2} e^t \cdot e^t} = \frac{1}{\sqrt{2}} = (\text{一定})$$

となるので、 θ は一定であり、 $\theta = \underline{\underline{\frac{\pi}{4}}}$

別解 $\vec{OP} = e^t (\cos t, \sin t)$ より、 \vec{OP} と x 軸とのなす角は t である。

また

$$\begin{aligned}\vec{v} &= \sqrt{2} e^t \left(\cos t \cos \frac{\pi}{4} - \sin t \sin \frac{\pi}{4}, \sin t \cos \frac{\pi}{4} + \cos t \sin \frac{\pi}{4} \right) \\ &= \sqrt{2} e^t \left(\cos \left(t + \frac{\pi}{4} \right), \sin \left(t + \frac{\pi}{4} \right) \right)\end{aligned}$$

より、 \vec{v} と x 軸とのなす角は $t + \frac{\pi}{4}$ である。以上より

$$\theta = \left| t - \left(t + \frac{\pi}{4} \right) \right| = \frac{\pi}{4} = (\text{一定})$$